

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[リンク 集約のサポート](#)

[考慮すべき事柄](#)

[既知の問題](#)

[関連資料](#)

概要

リンク 集約は 802.3ad 802.3ax の IEEE によって標準化されました。リンク 集約のよくある実装は EtherChannel、Link Aggregation Control Protocol (LACP)、Port Aggregation Protocol (PAgP)、先祖などです この技術情報は Sourcefire アプライアンスがリンクによって集約されるトラフィックをどのように処理するか記述します。

前提条件

要件

Cisco は Sourcefire FirePOWER デバイス モデルのナレッジがあることを、仮想デバイス模倣します、Link Aggregation Control Protocol (LACP)、EtherChannel および Port Aggregation Protocol (PAgP) 推奨します。

リンク 集約のサポート

Sourcefire アプライアンスはリンク 集約 プロトコルがパケットに追加データ自体を追加しないのであらゆる標準リンク 集約 実装を使用できます。Sourcefire アプライアンスの実装間に既知の問題がないし、集約プロトコルをリンクします。

考慮すべき事柄

次のポイントはリンクによって集約される配備の Sourcefire アプライアンスを配置するとき考慮される必要があります:

1. Sourcefire アプライアンスがパッシブモードにあり、EtherChannel のリンクすべてが同じ検出 エンジンによって監察されれば、リンク 集約 設定は重要ではありません。
2. 単一 検出 エンジンがいくつかのリンクを監察するかまたはデバイスがインライン デバイスとして配置されれば、両方送信元および宛先 MACアドレスを使用するためにリンク 集約が設定されることだけ推奨されます。これは非同期 ルーティングに関するパフォーマンス問

題を回避します。

3. Snort は問題無しでリンクによって集約されるトラフィックを処理することができます。ただし、Snort はスイッチの間で送信されたリンク 集約 制御パケットをデコードできません。
4. EtherChannel のロード バランシング メソッドは各トラフィックフローとない各フレームがパケットに基づいています、従ってフローはロードをバランスをとられて得るものです。「ソース IP および EtherChannel の宛先IP」の設定は Sourcefire snort 例を渡るロード バランシングに影響を与えるかもしれません。これは実行されたハッシュが IP のより多くの限られたセットという結果にから選択するために終ればだけです。「発信元MAC および送信先MAC」の使用方法は負荷分散と助けるかもしれません。

既知の問題

LACP の次の既知の問題はすべてのバージョン前におよび 5.3.1.1 を含まれていることで報告されます:

場合によっては、適用はアクセスコントロール ポリシー、不正侵入 ポリシー、ネットワーク開発ポリシー、またはデバイスコンフィギュレーションに変更します、または脆弱性データベース (VDB) の不正侵入ルール アップデートかアップデートをインストールするによりシステムは高速モードで Link Aggregation Control Protocol (LACP) を使用するトラフィックの中断を経験します。回避策として、遅いモードの LACP リンクを設定して下さい。(112070)

関連資料

- [FireSIGHT システムバージョン 5.3.1.1 リリース ノート](#)